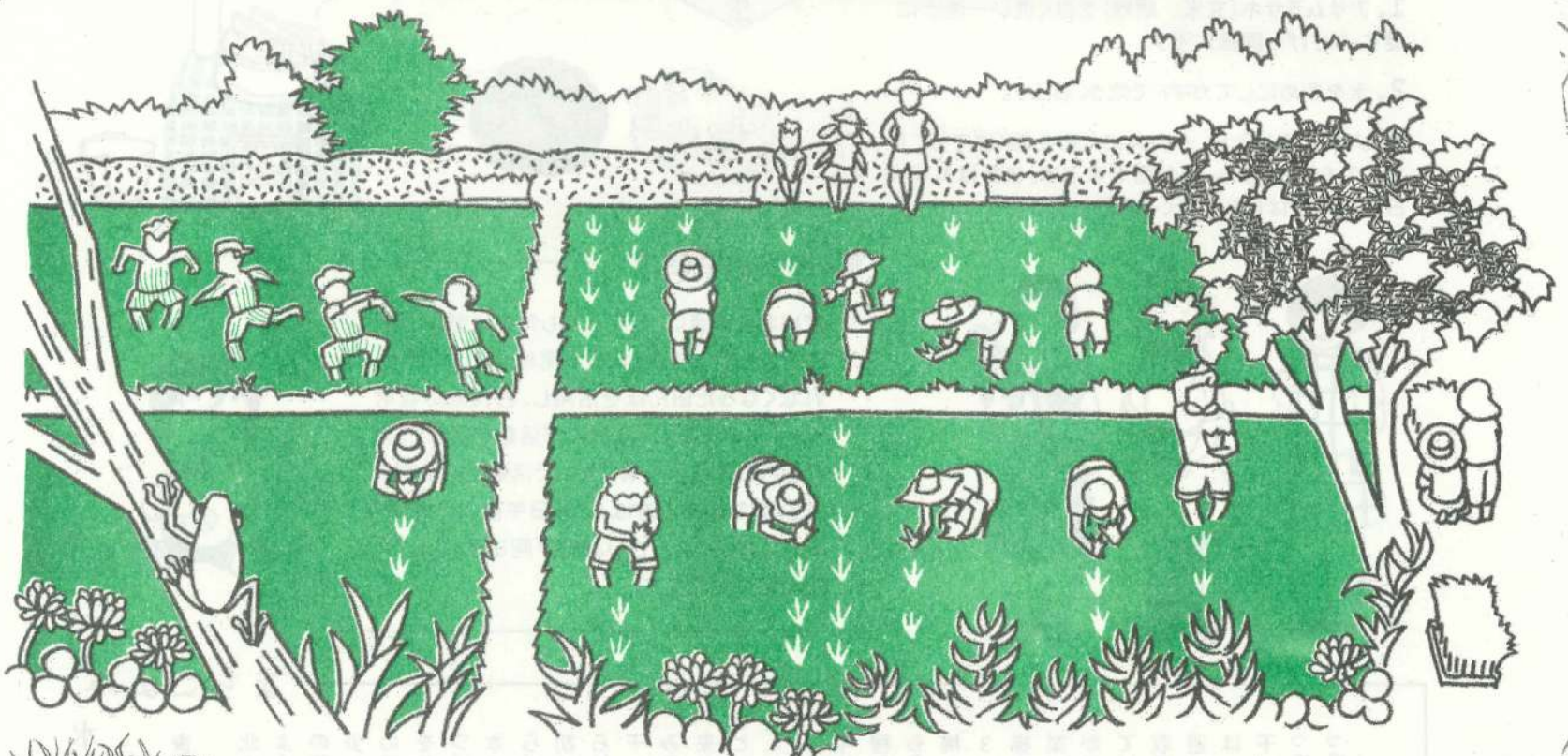


田植え

— 大人も子供も。季節の恵みを一緒に味わい愛でる一日 —



田んぼの学校



北本市高尾地区、高尾橋のたもとで活動している市民団体『荒川わらの会』。毎年子供たちを大勢集めて『田んぼの学校』という、体験企画を開催しています。

田んぼの学校では、お米を植えて食べられるまで、その工程を半年間にわたり、参加者が一緒に体験していきます。2021年の田植えは6月5日土曜日。約20名が集まり、わらの会のおじちゃんおばちゃんに、田植えのやり方を教わります。この日に植えるお米の種類は「コシヒカリ」と「アサムラサキ」の2種類。「アサムラサキ」は古代米と呼ばれ、黒い色をした餅米です。



泥んこになりながら



稲を手に取り田植えのスタートです。子供は専用の泥んこ田んぼで走り回り、大人は黙々と植えていきます。裸足で田んぼに入る感覚。ヌルっとして生暖かく、これがとても気持ちいいのですが、中腰の姿勢が腰にはつらい...とても疲れます。

田んぼの横には、赤い実をたくさんつけた桑の木が。田植えのかたわら、子供たちはおばちゃん達に連れられ、桑の実の収穫に出かけます。桑の木の下にシートを敷き、長い棒で桑の木を揺ると、ぼたぼたと実がシートの上へ。実を拾って食べると、なんとも言えない甘酸っぱい味が口いっぱいに広がります。子供たちは、口の周りを赤く染めながら、夢中で桑の実を頬張ります。皆で収穫した桑の実にはジャムとなって、お昼にヨーグルトの上に添えられていました。

